

(19)日本国特許庁（J P）

(12) **公 開 特 許 公 報** (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002－238881

(P2002－238881A)

(43)公開日 平成14年8月27日(2002.8.27)

(51)Int.Cl ⁷	識別記号	F I	テーマコード [*] (参考)
A 6 1 B 5/22		A 6 1 B 5/22	A 4 C 0 1 7
5/00		5/00	N 4 C 0 2 7
	101		101 E
5/0205		5/05	C
5/0476		5/02	G
審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 数) 最終頁に続く			

(21)出願番号 特願2001－37829(P2001－37829)

(22)出願日 平成13年2月15日(2001.2.15)

(71)出願人 591222407

株式会社松屋総合研究所

山口県岩国市室の木町1丁目7番45号

(72)発明者 松塚 展門

山口県岩国市室の木町2－7－41－2

Fターム(参考) 4C017 AA10 AA16 AA18 AA20 AC15

FF05

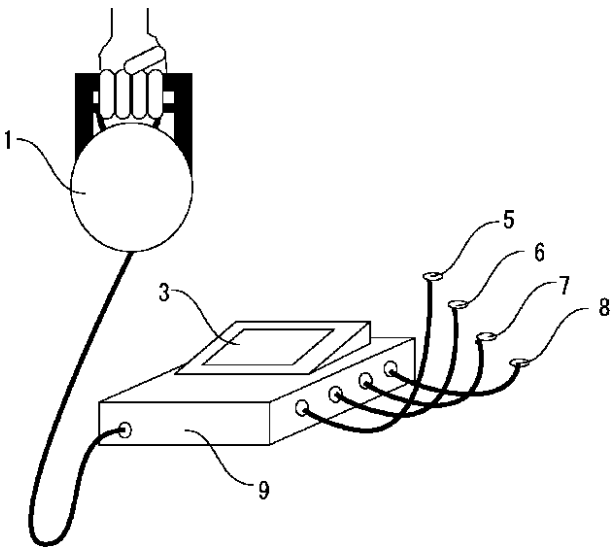
4C027 AA00 AA03 CC00 GG00 HH11

(54)【発明の名称】 生体反応検出装置付き体力測定装置

(57)【要約】

【課題】福祉関連での要介護度の認定や、障害の度合いの認定、残存能力の測定などで、被測定者が意図的に偽った体力で測定に臨み、偽った力を出すことを防止することにある。

【解決手段】被測定者の出す力を検出する体力検出装置と、被測定者の脈拍、体温、発汗などによる電気抵抗値の変化、脳波の変化等の生体反応をいずれかひとつ又はふたつ以上組み合わせて検出する生体反応検出装置とからなる生体反応検出装置付き体力測定により、被測定者が意図的に偽った体力で測定に臨み、偽った力を出すことを防止することができるようになる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 被測定者の出す力を検出する体力検出装置と、被測定者の脈拍、体温、発汗などによる電気抵抗値の変化、脳波の変化等の生体反応をいずれかひとつ又はふたつ以上組み合わせて検出する生体反応検出装置とからなる生体反応検出装置付き体力測定装置。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】 この発明は、被測定者の最大体力を測定する時に、被測定者が意図的に偽った体力で測定に臨み、偽った力を出すことを防止する体力測定装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 人間の体力を測定する装置はさまざまあるが、これらの装置はいずれも被測定者が持つ最大の体力を測定することを目的としている場合が多い。しかし、被測定者が偽った力を出した場合、被測定者の最大の体力を測定することはできない。すなわち、被測定者が意図的に力を変化させれば、被測定者が本来持っている最大の体力を測定することは不可能である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 そこで、本発明は、前記の課題に対して発明したものであって、その目的とするところは、福祉関連での要介護度の認定や、障害の度合いの認定、残存能力の測定などで、被測定者が意図的に偽った体力で測定に臨み、偽った力を出すことを防止する体力測定装置を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明は、被測定者の出す力を検出し、あわせて、被測定者の脈拍、体温、発汗などによる電気抵抗値の変化、脳波の変化等の生体反応をいずれかひとつ又はふたつ以上組み合わせて検出して、これらの検出した生体反応を時間軸と各検出値軸とのグラフにてその変化を表示することを可能とするものである。したがって、これらの検出した体力と生体反応の変化をチェックして、被測定者が意図的に偽った体力で測定に臨み、偽った力を出すことを防止するものである。

【0005】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の一実施例を図1および図2を用いて説明する。被測定者によって体力検出装置1に入れられた力はデータ処理部2を介して表示部3に表示される。このとき、筐体9内部の生体反応検出装置4によって、被測定者の脈拍、体温、発汗などによる電気抵抗値の変化、脳波などの生体反応をいずれかひとつ又はふたつ以上組み合わせて検出する。なお、当然*

ながら、生体反応の検出は体力測定前から継続して行われる。これらの検出された生体反応は、データ処理部2を介して表示部3で時間軸と各検出値軸とのグラフにてその変化が表示される。この時間軸上の各生体反応の変化により、前記被測定者が偽った体力で測定に臨んだとしても、その偽った測定行為は、脈拍センサ5、体温センサ6、発汗による電気抵抗センサ7、脳波センサ8等の生体反応の時間軸上の変化で判断することが可能となる。なお、前記のセンサは、その他の生体反応を検出するセンサを含めて、いずれかひとつ又はふたつ以上選択して組み合わせて使用することも可能である。

【0006】 例えば、被測定者が意図的に偽った体力で測定に臨んだ場合、前記の生体反応検出装置4によって平常時と異なる状態が時間軸に対する生体反応の生体反応軸上の変化として表示部3にグラフなどの形で表示されるので、被測定者の偽った測定行為を防止することができる。

【0007】 以上の方法により、本発明の生体反応検出装置付き体力測定装置は、福祉関連での要介護度の認定や、障害の度合いの認定、残存能力の測定などで被測定者が意図的に偽った体力で測定に臨み、偽った力を出すことを防止するものである。なお、本発明の生体反応検出装置付き体力測定装置における測定結果は、プリントアウト又は外部、内部メモリに格納できるのはいうまでもない。

【0008】

【発明の効果】 本発明によれば、福祉関連での要介護度の認定や、障害の度合いの認定、残存能力の測定などにおいて、被測定者が意図的に偽った体力で測定に臨んだ場合、被測定者の偽った測定行為を防止することができるようになる。

【0009】**【図面の簡単な説明】**

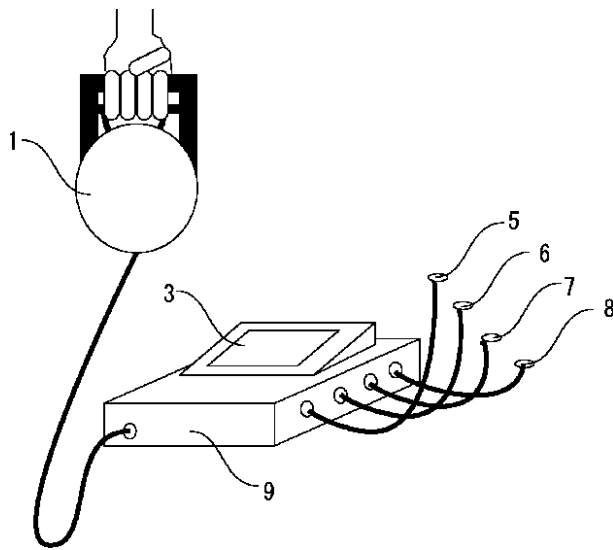
【図1】 本発明の実施例を示す正面図である。

【図2】 本発明の実施例を示すブロック図である。

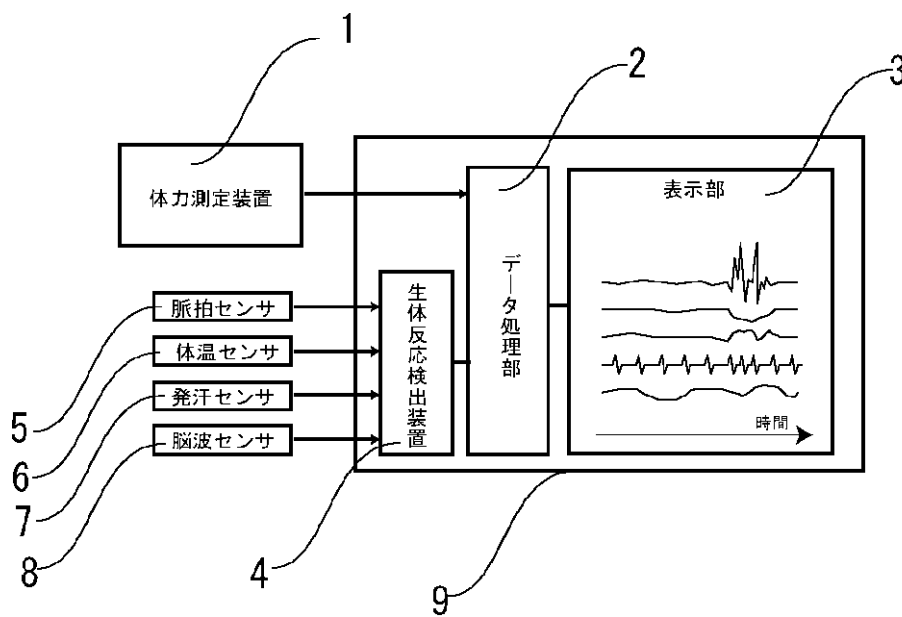
【符号の説明】

- 1 体力検出装置
- 2 データ処理部
- 3 表示部
- 4 生体反応検出装置
- 5 脈拍センサ
- 6 体温センサ
- 7 発汗による電気抵抗センサ
- 8 脳波センサ
- 9 筐体

【図1】



【図2】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁷
A 6 1 B 5/05

識別記号

F I
A 6 1 B 5/04

テーマコード^{*} (参考)

3 2 2

专利名称(译)	具有生物反应检测装置的体质测量装置		
公开(公告)号	JP2002238881A	公开(公告)日	2002-08-27
申请号	JP2001037829	申请日	2001-02-15
[标]申请(专利权)人(译)	株式会社松屋総合研究所		
申请(专利权)人(译)	株式会社松屋総合研究所		
[标]发明人	松塚展門		
发明人	松塚 展門		
IPC分类号	A61B5/00 A61B5/01 A61B5/0205 A61B5/0476 A61B5/05 A61B5/22		
FI分类号	A61B5/22.A A61B5/00.N A61B5/00.101.E A61B5/05.C A61B5/02.G A61B5/04.322 A61B5/01.100 A61B5/22		
F-TERM分类号	4C017/AA10 4C017/AA16 4C017/AA18 4C017/AA20 4C017/AC15 4C017/FF05 4C027/AA00 4C027/AA03 4C027/CC00 4C027/GG00 4C027/HH11 4C117/XA01 4C117/XA07 4C117/XB01 4C117/XC19 4C117/XD16 4C117/XE06 4C117/XE13 4C117/XE18 4C117/XE20 4C117/XE23 4C117/XE80 4C117/XF03 4C117/XF26 4C117/XG19 4C117/XG33 4C117/XJ23 4C117/XR20 4C127/AA00 4C127/AA03 4C127/CC00 4C127/GG00 4C127/HH11		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：为了防止考生在体力检查中故意伪造体力，以确定与社会福利相关的护理给予程度，残疾程度，剩余能力程度等。解决方案：具有生命反应检测器的物理强度检查装置包括用于检测被检者体力的物理强度检测器和用于检测诸如电阻变化之类的重要反应中的一个或至少两个组合项的生物反应检测器以及由受试者的脉搏率，体温，出汗等引起的脑电波的变化。体力检查装置可以防止被检者在体力检查中故意伪造体力。

